

令和8年度 総合型選抜 経済経営学部 小論文
出題の意図と解答の傾向

【出題の意図】

本問題は、インプット講義の内容を踏まえて主題されたものである。本年度は「子どもの貧困」と「子ども食堂」に焦点を当てた。近年、子どもの貧困率の推移や非正規雇用の増加、ひとり親世帯の現状など、社会的背景が複雑化している。こうした課題に対し、子ども食堂は単なる食事提供（貧困対策）だけでなく、地域の居場所づくりや多世代交流、見守り機能など多様な役割を担い、年々その数は増加している。しかし、運営資金やスタッフ確保、支援を必要とする家庭へのアプローチの難しさなど、現場には多くの課題が残されている。講義では、社会的背景の変遷や現代的課題、さらに具体的な事例を通じて、子ども食堂の意義と課題を多角的に提示した。その上で、①講義内容を的確に理解できているか、②インプット講義を踏まえ、自身の経験や知識を活かしたアイデアや考察を表現できているか、この2点を問うことを目的としている。

【解答の傾向】

全体的な傾向として、日頃から社会で起きている事柄（時事）や社会課題に関心を持ち考えているか、また問われていることを理解できているか（文章の読解力）と言った点で解答に個人差が表れていた。①の点では、講義内容を理解し、網羅的に整理できている者がいる一方で、印象に残った（あるいは自分が知っている）事柄のみを記載する者で、質・量ともに個人差が見られた。②では、身近な子ども食堂の取り組みや自身の経験、ニュースなどから着想を得て具体的に述べる者もいたが、講義内容の理解が不十分なまま思い込みで解答したり、設問の意図を捉えきれずに記述したりする者も見受けられた。

現在、「子ども食堂」は名称以上に多様な機能を持つ取り組みへと発展している。こうした多様化する活動に期待される役割や、そこから生じる課題について、インプット講義を通じて多角的に捉えられたかどうか、解答のポイントとなったと言えよう。